

令和4年度 自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人駒場けやき学園 駒場幼稚園

1. 本園の教育目標

- 自ら感じ、考え、表現することができる子ども
- 心も体もたくましい子ども
- 友だちとかかわる中で、喜びを感じ、互いを生かしあうことができる子ども

2. 令和4年度に重点的に取り組む目標・計画

- 満三歳児クラスを中心に、本園の教育課程を見直し、園児のより豊かで質の高い生活経験と学びの機会を積極的に作っていく。
- 保護者に園生活の様子を伝えたり、見てもらう機会を増やすなど、幼稚園における子どもたちの成長について、教員と保護者の共通理解を深めていく。
- 教職員が健全なワークライフバランスを保持したうえで職務に取り組めるよう、園は働き方改革を進め、教職員は労働時間の管理を各個人でも意識して取り組む。(継続)

3. 自己点検評価項目の取り組み状況（令和4年度末実施のアンケート結果をもとに）

◎ 日常の教育活動および教育課程、保護者との関わり等について

・日々の保育においては幼児の思いが大切にされ、やりたい遊びに十分取り組める配慮がされている。

・保育の方法と園舎の構造上、担任の目の届かない場で自分のクラスの子どもが遊んでいることは常にあり、その点を教員間の連携で補っていくことが重要である。実際の連携の仕方については、一人ひとりの教員の成長課題をも考慮しつつ、ベテランがどのようにアドバイスしたり、チームで補ったりしていくか、教員全員で取り組むべき大きな課題である。

・指導計画や教育課程は子ども個々の姿や課題、どのように援助していくかの方向性を明確にする助けとなり、教員間で共有することで、保育の現場で同じ方向を見て保育することができたと思う。

・満三歳クラスの教育課程を中心に、現在の本園の教育内容と照らし合わせて見直すことができた。引き続き、社会の変容の影響を受け、子どもたちの経験や育ちがどのように変化しているかを考察し、必要に応じて教育課程に反映させたい。

・学期ごとの保育の振り返りにおいては、特に若い保育者がまとめの意味を考えるきっかけになるように、それぞれが何を明らかにしたいかをもとに、学年ごとに形式にとらわれず自由な方法で取り組む試みは有意義であり、今後も継続したい。

・保護者が我が子を多角的にとらえ、いい面をたくさん知り、親子関係が良好に築けるように願って日々の連絡帳やクラスだより、個別面談や懇談会などを活用してきた。引き続き保護者を支え、子育ての大変なことも一緒に乗り越えたいと願っている。そのためにも話を聴

くこと、カウンセリングマインドなどを学び直したい。

◎ 働き方改革など

- ・業務量が多く、持ち帰り仕事もあり、仕事を優先しがちで、仕事と家庭の間で気持ちの切り替えができないという状況を改善したい。
- ・心身の健康のためにも、定時退勤は大事である。定時退勤を目指して仕事のやりくりを皆で頑張る努力が必要。
- ・若手教員ものびのびと考えたり意見を言い合ったりできるように、年齢や経験、得意・不得意を互いに生かしあいながら、足りないところはみんなて補っていくことを引き続き大切にしていきたい。

4. 学校関係者評価（令和5年3月25日および5月27日 評議員会内で実施）

- ・令和4年度に実施した保育参観の保護者感想から、優れた幼児教育の実践があることがわかる。子どもが没頭して遊ぶことの大切さを改めて感じる。自分の目の前にあることを楽しむことを身体で覚えることができれば、子どもは自分で世界を広げていける。またそのようにして非認知スキルが向上すると確実に学力が向上することもわかっている。
- ・今、駒場幼稚園に子どもを通わせている家庭は、専業主婦や自営業の家庭が多いと思われるが、そのような中で子どもの多様性が確保できるかが課題だろう。現状ではある特定の階層の子どもしか集まらないのではないか。子どもにとっては誰と学ぶか、が大事であるが、園としては努力の仕方が難しいことである。
- ・働き方改革は、管理責任者が率先して実践していく必要がある。また、Wi-Fi環境の整備やICT活用による業務量の削減方法など、様々な働き方改革に関する情報を収集しながら進めていくとよい。

5. 今後の課題

- ・減少を続けている園児数の回復のために、園としてどのような努力ができるか。教育内容について一層積極的に保護者や外部に発信をして、理解を深めることが重要である。
- ・教職員のワークライフバランスの改善
- ・若手教員の養成のために、研修の機会を増やす、職場の環境作りの工夫など。